



参加者全員で行ったゲームでは笑いが絶えませんでした。

仲間「くくり」と交流の学級が開講

市内の視覚障害者やボランティアなどが参加する「青い鳥学級」は6月20日、生野老人福祉センターで平成19年度の開講式を行いました。

式には、学級生、ボランティアら約40人が出席。運営委員長の中島百合子さんが「皆さん、久しぶりの再会で、積もる話もたくさんあると思います。今日一日、ほかのことは忘れて楽しく過ごしましょう。」とあいさつ。式後は、参加者全員が自己紹介をした後、じゃんけんゲームや、谷住千里さんの民謡と一緒に歌ったりして和やかなひとときを過ごしました。

「山城の郷」は6月1日から4日まで、平面造形作家・椿野浩二さん（立脇）の作品展を開きました。

同施設は国史跡・竹田城跡のふもとに旧和田山町が建設し、平成13年7月にオープン。一時閉鎖していましたが、指定管理者制度のもとで今年4月再出発しました。椿などの絵画や掛軸等展示された作品の中で特に訪れた人の目を一際引いていたのは、地元産の赤土を素材にした大作「黙」。椿野さんは「指定管

「山城の郷」で芸術を鑑賞



期間中に山城の郷を訪れた約500人が椿野さんの作品を鑑賞

理者制度で再オープンした同施設を集客の面で応援したい」と話していました。

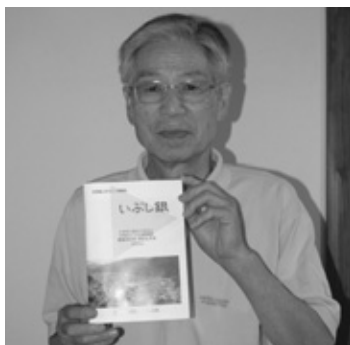
町並みを活かした町づくり、もてなしの心を身に付けて

口銀谷の町並みをつくる会（代表 今井常雄さん）は、生野銀山まるごと情報誌「いぶし銀」を発行しました。

近年、町を訪れる観光客へのホスピタリティ（もてなしの心）が求められている中で、サービス向上を期待して作成したものです。

この「いぶし銀」は、生野の歴史、人物紹介、散策時間別の1時間から2時間半までの5つのモデルコース、名所旧跡ごとの写真付きの詳しい説明などで構成されています。

今井さんは「この本を通じて、生野の資源、歴史をPRしたいですね。特に今年は生野銀山開抗1200年を迎えます。一部の人だけがガイドできるのではなく、地域の皆さん全員がガイドボランティアになってもらえれば。」と話していました。



散策ガイドマニュアル「いぶし銀」を持つ今井さん



手にはたくさんお土産、胸にはたくさん思い出



車中で参加者同士の親交を深めました。



参加者が一堂に会した大宴会